

山田町総合計画に係る答申 審議会から町長に伝達

2月9日、町役場4階特別応接室で山田町総合計画審議会（山崎喜六会長）から同計画策定に係る答申が伝達されました。同審議会は教育、農業、漁業、商工業など町内各団体の代表や、識見を有する方々14人で構成されており、これまで重ねてきた審議は計3回。山崎会長は「原案を可とします。次世代を担う町民に引き継がれる町づくりのために復興を最優先に進めていただきたい」と話し、佐藤町長が「お言葉に沿えるよう、自分と職員一丸となり事業に取り組んでいきたい」と応じました。



身近に進む大きな変化学ぶ 大沢小児童が復興工事見学

ゴン・ゴン・ゴンと音を立てながら校舎の周辺で進んでいく工事。2月8日、その現場を見学したのは、大沢小学校（佐久間充校長）の3～6年生の児童51人です。見学会は、沿岸広域振興局宮古土木センターが児童に復興への思いを強くしてもらおうと開催。延長2.8kmの主要地方道重茂半島線大沢～浜川目工区や大沢第1住宅団地の現場を歩いて回りました。児童らは「どんな思いで仕事をしていますか」「工事は順調ですか」などと質問をし、工事への関心を深めていました。

ほっとひと息講座を開催 紅茶と菓子で安らぎの時間

2月16日、町中央コミュニティセンターにおいて「ほっとひと息講座」が開かれました。これは、普段の仕事や子育て、家事などに追われる日々の、息抜きに役立つことを学んでもらおうと町が企画したものです。3回目となる今回は、社会教育指導員の山内伸さんを講師に、12人がおいしい紅茶の入れ方と“フライパンで作る簡単タルトタン”作りを勉強。講座は終始、和やかな雰囲気で行われました。皆さん、甘いお菓子とミルクティーで、日頃の喧騒を忘れてほっと一息…。



大沢で燻製作り体験会 地域の魅力と味力を再発見

わあ、いい香り！——。雪の降りしきる1月24日、山田町ふるさとセンターにおいて（公財）国際開発救済財団〈ファイダー〉と大沢地区の有志による燻製作り体験会が行われました。「海の宝をお燻製え」とユニークに名付けられた同会には、町内から29人が参加。燻製器から手作りする本格的な内容に皆、心躍らせていました。食材を燻製している間に行われた地区の見どころ紹介の後はお待ちかねの試食タイム。参加者らは、味と香りを堪能しながら、おいしく燻すコツを教わっていました。



町のわだい

今月の題字 山口 ^{しんご}信悟君（織笠小2年）



山田町の子どもが演技披露 キッズミュージカルを開催

2月14日、劇団ゆうの主催するキッズミュージカル「プリンセス・マーメイド」の公演が町中央公民館大ホールで行われました。これは、沿岸部の芸術文化活動の支援を目的に行われているもので、本町からは35人の子どもが出演。同劇団のメンバーらとともに演技を披露しました。この日会場に訪れた約600人の観客は、魚やカモメに扮した子どもたちの演技に大満足。「アンダー・ザ・シー」の合唱でフィナーレを迎えた会場には満場の拍手が巻き起こり、子どもらの顔には達成感に満ちた笑みが溢れていました。



鬼は外！福は内！！ 山田八幡宮で恒例の節分祭

2月3日の夜、山田八幡宮で節分祭が開催されました。これは、邪気をはらい福を招いて、子どもたちのことし一年の健康を祈願するために行われているもの。境内には袋を持った多くの子どもたちが集まり、お目当ての祝いまきを楽しみにしていました。「関口不動尊神楽」と「山田八幡宮太神楽」の舞の後にまかれた餅や豆。紅色の餅には様々な景品が当たるくじが入っていて、参加者らは空に向かって手を伸ばしました。当たりくじを拾い、景品を受け取った子どもらは「たくさん拾えました」「当たりを拾えてよかったです」などと喜びました。

